

県内の有効求人倍率はつなぎ上りなのに、働きたくても働けない。そのため息をつく女性が増えている。原因の一つが、保育士の人手不足だ。今や、働きたい女性の「足かせ」になりにかねない深刻な状況にある。

「またダメなんか…」

金沢市の会社員女性(35)は昨年春、次男の出産を間近に控え、途方に暮れていた。産後半年で職場復帰したいと考え、近隣の複数の保育施設に預けられないか尋ねて回った。しかし、返ってくる答えはいつも同じ。「来年4月まで空きはないの一言だった。

人手不足の現場から ●保育・介護

「また」というのは長男も空きが出るまで割高の認可外保育園に預けた経験があるからだ。今回は出産前から動き始めたが、結局、次男も翌春まで認可外施設に通わせるを得なかった。

「保育園落ちた日本死ね」とつづられたブログをきっかけに、待機児童問題が取りざたされたのは昨年2月。石川県は「待機児童ゼロ」と胸を張り、子育て先進県を掲げてきた。しかし、現実には保育士不足で常時ゼロとは言えない実態がある。

「女性の活躍推進って言っても子どもを預けられないと

「日本死ね」石川でも

働けない。「日本死ね」って思つのも仕方ない」。女性の周囲でも同じ経験をした人は多いという。

「常時ゼロ」でない

公立保育所は毎年4月1日時点の入所児童数で保育士の配置数が決まるため、その時点の待機児童はゼロとなる。常時ゼロでないのは、近年増えている3歳未満児の入所希望が年度途中に寄せられることが多く、「柔軟に対応できるほど保育士の数に余裕がない」のが理由だ。

保育士の県内有効求人倍率は、新年度に向けた求人倍率が活発になる2月に3・01

倍を付けた。

保育士は「低賃金、重労働」のイメージが強く、景気回復で他産業の賃金が改善すればするほど厳しい環境が浮き彫りになる。国も4月に賃上げを行い、人材確保を後押ししており、最近はこのに加え独自に奨学金制度を設ける動きもある。

小松市大和善隣館は7月、保育士を志す学生や専門学校に最大で年50万円を貸す取り組みを始めた。卒業後、運営するこども園で5年間勤務すれば返済を全額免除する仕組みである。

運営施設では、まだ保育士不足は深刻ではないが、担当

にした説明会を開催予定だ。七尾市も今年度から、市内の私立保育園での5年間勤務を条件に2年で最大120万円を貸与している。

同じく「低賃金、重労働」の印象がつきまとう介護士も、この1年の県内有効求人倍率は3倍前後で高止まりしている。

県はネガティブなイメージを払拭しようと、今年度から魅力ある福祉職場認定制度を開始。6月に開いたセミナーには約130人が集まった。人材の確保に懸命な介護施設は多く、金沢市の40代施設

「低賃金、重労働」で敬遠



者は「保育業界に進む人自体が減っているという話も聞く。今のうちからできることをしておきたい」と話す。資格を持ちながら離職している潜在保育士の復職も呼び掛けるため、9月には新卒以外も対象保育士確保へ独自の奨学金を設けた大和善隣館のこと
も園 小松市内

職員は「この2年間、募集しても人がこない。国は『自立支援を』と旗を振るが、十分なケアができない」と漏らす。施設のベッドが空いていても職員不足で受け入れてもらえないケースもあり、それが身内の介護を理由に仕事を辞める「介護離職」を生んでいる。北陸新幹線効果も相まって、県内経済にはようやく日が差し始めた。だが、それによって福祉の現場は、かえって人手不足に拍車を掛かった。処遇の改善が進まなければ、今後の人口減少対策や社会福祉の在り方に影を落としかねない。